



2009-2010 年度 RI テーマ
「ロータリーの未来は、
あなたの手の中に」
RI 会長 ジョン・ケニー
地区ガバナー 村上 有司





海南東ロータリークラブ

ROTARY CLUB OF KAINAN EAST

RI District 2640 Japan

第 1579 回例会 (2009-2010 年・第一例会)

平成 21 年 7 月 6 日(月)

19:00～ 海南商工会議所 4F

1. 開会点鐘
2. 国歌斉唱 「君が代」
3. ロータリーソング 「奉仕の理想」
4. お客様紹介
ガバナー補佐 川村 克人様 (有田 RC)
5. 新入会員の紹介
朝井 修君、中村 俊之君、千賀 友起君
6. 出席報告
会員総数 67 名 出席者数 50 名
出席率 74.63% 前回修正出席率 81.16%

7. 会長スピーチ 会長 花畑 重靖君

皆様、こんばんは。
ガバナー補佐の川村克人様、お忙しい中ようこそおいで下さいました。
再入会の朝井修さん、新入会の中村俊之さん、千賀知起さん、ご入会おめでとうございます。



私が 22 年前、昭和時代、新入会したときのことを述べさせていただきます。この私の席に中村俊之さんのお父さんのたかしさんが座っていました。今の寺下さんの席に、朝井修さんが座っていました。今の名手さんの席に、昭和の名手さんが座っていました。あれから 22 年、朝井さんも、名手さんも年を取っていません。若いです。その時の会員数は 67 名、新入会員は 3 名、中村文雄さんと笹尾さんと私です。その時の親睦委員長は山名さんでした。一カ月後の新入歓迎会にはカラオケを歌えとのことでした。大嫌いなカラオケ、坂本冬美の祝い酒を練習して歌いましたがうまくなりません。へたです。それをみかねたのか先輩のおいたさん、同期の笹尾さんと何回となく和歌山へ連れていってもらいました。それでもうまくならないので、花ちゃんに合った歌をこしらえていると笹尾さんが言って、あれから 22 年、まだこしらえてもらっ

ていません。

花ちゃんと言われるようになったのも、ロータリーに入会してからです。入会時の思い出はいろいろありますが、本日はこれくらいにします。

会長方針に入ります。本日皆様の手元にある「手に手つないで」を見て下さい。

会長方針は「明るく。楽しく。健康で！」そして、「増強なくして活性化なし。奉仕の喜び。みんな仲よく輪になって」です。私は海南東ロータリークラブに入会させて頂きいろんな面で大変良かったです。新しく入会した方も、こんな楽しいクラブならもっと前から入会したかったと言っています。

みんながそう思えるクラブにしたいです。

一年間、宜しく願います！



花畑会長



寺下幹事



名手 S. A. A

8. ガバナー補佐祝辞

ガバナー補佐 川村 克人様 (有田 RC)

花畑会長様、寺下幹事様を軸として、本年度新組織による初例会の開催おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

また、前期の宮田会長様、山田幹事様ありがとうございました。一年間のお勤めを終わられほつとされたことと存じます。深く感謝申し上げます。海南東ロータリークラブ様の、知る人ぞ知る有名な夜間例会にお招き頂き、誠に有難うございます。感激いたしております。

貴クラブは、今や 2640 地区で先頭を走っているクラブでございます。平尾パストガバナーをはじめ、地区に派遣されて活躍されている委員長や委員、ガバナー補佐の先輩など、沢山の方々がおられま



四つのデスト 言行はこれにてらしてから
①真実かどうか ③好意と友情を深められるか
②みんなに公平か ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南市日方 1294(海南商工会議所内)
電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長：花畑 重靖 幹事：寺下 卓 SAA：名手 広之

<http://www.kainaneast-rc.jp>

E-mail : info@kainaneast-rc.jp

国連事務総長の講演で 第100回国際大会が開幕

6月21日、イギリス・バーミンガムでの2009年国際ロータリー国際大会の開会本会議で潘基文（パン・ギムン）国連事務総長が特別講演を行い、ロータリアンの活動をたたえました。

潘氏は「ロータリーは世界ポリオ撲滅活動に全身全霊をささげている」と称賛。

『ポリオのない世界』とは、ロータリーが抱く明確なビジョンです。今こそ、撲滅を完遂するときです。世界中の政府の協力が必要とされています。私たちが手を合わせれば、次世代の子どもたちにポリオのない世界をもたらすことができるのです」と述べ、国連の協力を約束しました。

また、「国連は、ロータリーが今後も活動を着実に続けていくと信頼を寄せています。グローバルな現在における私たちの強みは、協力関係です。全協力者が手を取り合って取り組んでいかなければならないのです」とし、気候変動、飢餓、資源の減少などの世界的な問題への支援も求めました。

第100回のロータリー年次大会は、李東建R I会長の韓国と開催地イギリスの文化を反映したパフォーマンスで彩られました。ロータリーが存在する国と地域の国旗入場には、いつもながら、その数の多さを実感することができました。

田中作次国際大会委員長は、今回の大会が特別であ



ったのは、第100回ということばかりではありません。日本にとっては、この大会の委員長が日本のロータリアンの田中作次氏（第2770地区・八潮）だったことも挙げられることでしょう。田中氏は、開会式のあいさつで、「1910年以来、毎年、ロータリアンは年次大会に集まってきます。

最初は、60人のロータリアンがシカゴに集まりました。アメリカの14のクラブから集まった方たちですが、この大会で、全米ロータリークラブ連合会が組織されました。1910年の大会は、私たちの伝統のもと

となりました。将来を討議し、親睦の楽しむような行事をつくったのです」と、第1回大会の意義について紹介しました。



李東建R I会長は、「ここバーミンガムにおいて、第100回年次大会にいることは、非常に喜ばしいことです。私にとって、この年度は、成長と発展の年度でした。そして、学ぶ年度でもありました。ロータリアンが自分たちの力を最大限に発揮して、夢をかたちにすることを目の当たりにすることができました。そして、私は、自分も最大限に努力をしなければいけないと感じました。また、私はこれまでの人生において、一番英語を使う年度でもありました。この過程の中で、ロータリアンがいかに辛抱強く、私を理解しようと思ってくださっているかということを感じました」と述べ、「英語圏以外のローターアクター、インターアクターの皆さんに申し上げます。簡単な言葉です。“英語の宿題をきちんとやりなさい”いつか、あなたたちの中から、R I会長が出るかもしれないのです。がんばってください」と、ユーモアたっぷりに呼びかけました。



李会長はアフリカを訪れたときに見た病気で飢えた母子について述べ、「私は、このような貧しい人たちがいるんだということを認識しました。そこで私は、自分のできる限りのことをして、子どもたちの死亡率を提言し、夢をかたちにしようと、堅く誓ったのです」と、子どもの命を救うことを呼びかけた背景を紹介しました。

「皆さまの思いやりの心によって、私たちはさらによりよいことをしていくことを信じています。皆さまの固い



決心によって、専門知識によって、奉仕をしていくに違いありません。また、私は、近い将来、ポリオがなくな

るといことも信じています。皆さまのロータリーの2億ドルのチャレンジにたいする反応はすばらしいものです。私たちの公共イメージが最高なものになっています。皆さまが夢をかたちにすることに尽力くださったこと、水、保健、飢餓緩和、識字率の向上のために活動してくださったこと、それによって子どもたちの死亡率を低下させてくださったことに対して、心から感謝いたします」と結びました。

